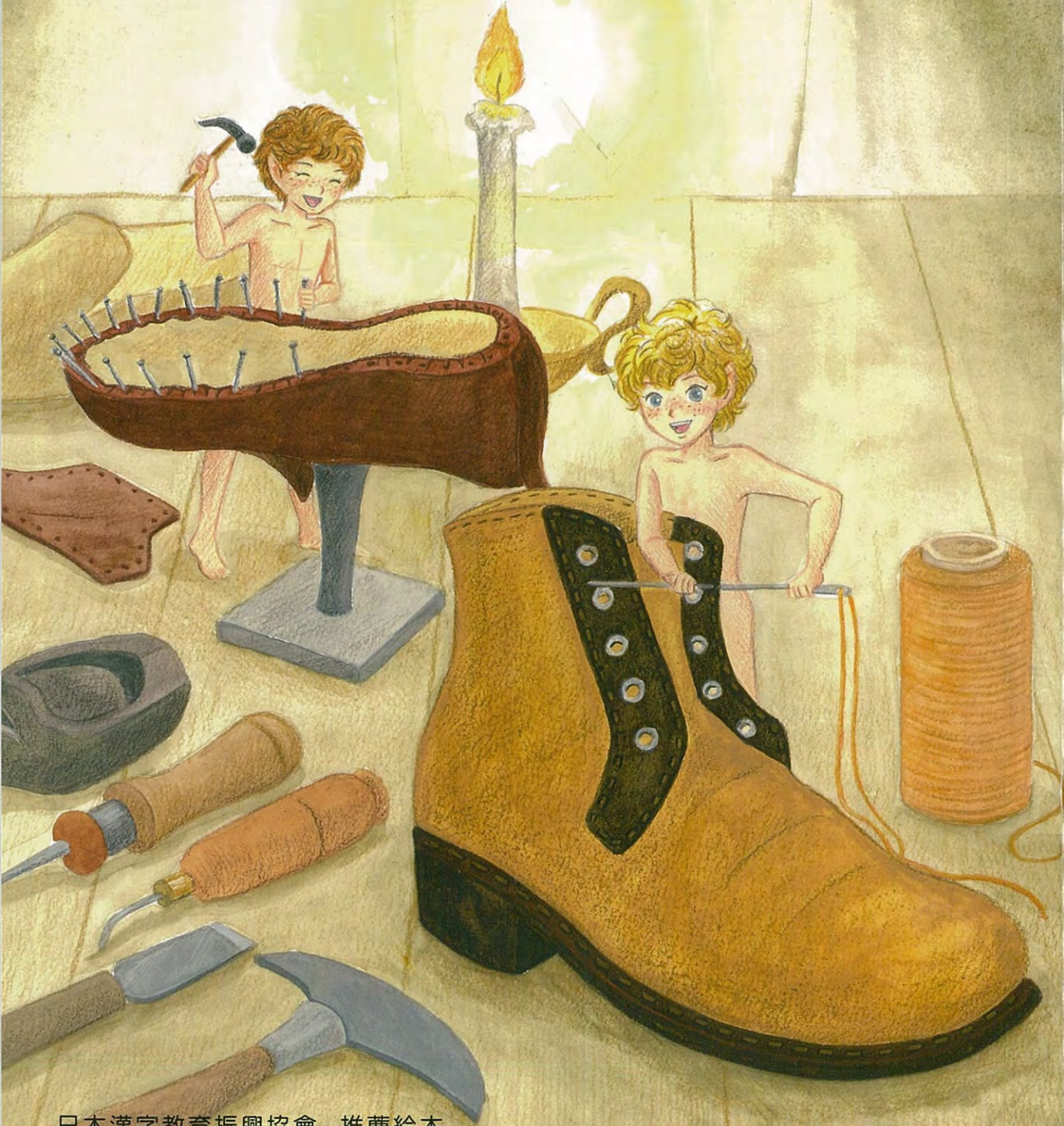




子供たちに伝えたい美しい日本語
石井式育み文庫

絵／みやかわさとこ

小人の靴屋



昔、とても貧しい靴屋がいました。
いくら働いても、暮らしは楽になりません。
ある日、とうとう材料の皮が一足分になってしまいました。
「明日、最後の皮で靴を作ろう。」
靴屋は眠りにつきました。



皮

次の朝、作業場に来ると、
なんとも見事な靴が出来上がっているではありませんか。
「いったい誰が作ったんだらう？」

そこへお客がやってきて、

「なんと立派な靴だ。」

とても気に入って、喜んで買っていききました。

売れたお金で、二足分の皮が買えました。

そして、皮を断つと、

「縫うのは明日にしよう。」

と、眠りにつきました。

靴



すると次の朝、また二足の靴が出来上がっているのです。

「誰だろうなあ、一晩のうちに二足もの靴を

縫い上げるとは……。」